

平成22年度 世羅町立大田小学校 自己評価表

1 経営理念 【教育目標】

大きな夢をもち、心豊かにたくましく生きる子どもの育成
歴史と伝統ある大田小学校をみごとに閉じ、世羅小学校へつなげる土台をつくります

めざす姿 「落ち着きのある学校」「意欲のある児童」
「あいさつ・姿勢・一生懸命」の精神が貫かれた学校
自己肯定感を高め、意欲を育てる教育活動

担当分掌 知 = 知の推進部(研修) 徳 = 徳の推進部
体 = 体の推進部 生活 = 生活指導部
教務 = 教務部

2 学校評価表

平成23年1月18日

評価計画				自己評価					学校関係者評価		改善計画			
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	担当分掌	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価		l コメント	m 改善案
						g 達成値	g 達成値				1	2		
知	基礎学力の徹底を図ります。 ことばの力、論理的思考力を育てます。 学習規律と家庭学習の定着を図ります。	国語・算数の学習内容定着の徹底を図る。	知	学期末テストの全国平均点より高い児童の割合(%)	75	68.1	74.7	99.6	B	学期末テストの全国平均点より高い児童の割合は、国語科74.2%、算数科75.1%、平均74.7%で、目標に達しなかった。	3	1	宿題は、先生が内容を決めて与えるだけではなく、子どもが自分で内容を考えてできる力もつけていってほしい。(やらされる学習から自ら進んでやる学習へ)	チャレンジタイム、家庭学習の取り組みを行ってきた。家庭学習は、毎週金曜日に、今学習している内容と以前学習した内容を課題とし、学習したことを忘れないようにしてきたことで、結果が1学期より改善した。今後も引き続き取り組みたい。
		授業の中で考えを書く活動を取り入れ、考える力を高める。	知	算数科の自力解決の記述内容レベルが3の児童の割合(%) (担任評価)	80	57.1	80.4	100.5	A	12月末の評価で、自力解決の記述内容レベル3の児童の割合は80.4%で、目標を達成した。	3	1	視写を行い、書くスピードをつけているのはよいことだ。 書く力と並行して、話す力・口に出して発信できる力もつけてほしい。(中学校の課題でもある)	算数科の授業研究を行い、どんな記述をさせたいのかねらいをはっきりさせた授業を研究し、全学級に広めてきた。来年度も算数科の研究を行い、書く力を高めていきたい。
		学習規律をつける。(立腰・相手を意識し、反応して聞く。)	知	姿勢よく学習している児童の割合(%) (参観日アンケート)	90	96.0	91.0	101.1	A	12月末の参観日のアンケートで、「姿勢が大変よい」と答えた保護者の割合は24%、「よい」と答えた保護者の割合は67%で計91%であった。	2	1	保護者は自分の子どもだけ見て評価しているのだろうが、実態と評価があっていない。来年度は管理職の先生が各学級を見て評価するなど、評価方法を見直した方がよい。	どんな姿勢を目指すのか具体的なレベルを決め、「目指せ姿勢ステップアップ」とし、各学級で取り組んできた。今後も引き続き取り組みたい。
徳	自信と意欲、思いやりのある子どもを育てます。 夢を持ち、一生懸命取り組む子どもを育てます。	自分の思いを堂々と表現できる子どもを育成する。	徳	「自分にはよいところがある」という児童の割合(%)	75	80.2	84.0	112.0	A	12月末の道徳アンケートの結果、「自分には、よいところがある」と答えた児童の割合は、84.0%であった。	3	1	「自分にはよいところがある」と全く思っていない児童に対しては、周りの人がよいところを教えて、自分のよさに気づかせていくとよい。 児童個々の話を聞くことも大切である。	「自分にはよいところがある」と思っている児童の割合は上昇した。引き続き、授業や行事等で肯定的評価を行い自己肯定感を高めていながら、児童の思いをじっくりと聞く時間が持てるようにしていく必要がある。
		地域を知り、地域に親しみ、地域のために行動する子どもの育成をする。	徳	「地域が好き」「夢を持っている」という児童の割合(%)	85	90.1	92.3	108.6	A	「地域が好き」90.6%、「夢をもっている」94.5%であった。どちらの項目も、2学期の調査よりも向上している。「地域が好き」については、1学期初めよりも向上している。(平均92.3%)	3	1	特になし	地域の人達と触れ合い、地域のことを知る活動を通して、地域の人々のすばらしさや地域のよさに触れることができた。地域の人々の生きざまから、児童が夢や目標が持てるよう、内容を考えていく必要がある。
体	体力づくりに取り組みます。 基本的な生活習慣の確立を図ります。 食育の推進を図ります。	しなやかな体をつくる。(柔軟性・筋力の向上)	体	1学期より記録が向上した児童の割合(%)	75	75.3	100	A	握力の向上率は74.3%で、2回目の記録ではほぼ全学年で全国比を超えた。長座体前屈の向上率は76.2%で、2回目の記録では全学年で全国比・県比を超えた。	3	1	学校でも家庭でも体を動かすことをいどわい児童を育てていってほしい。手伝いなどの奨励もその一手段である。 遊びの中に体力向上の取り組みを組み込むことで、体力向上が図れる(パッチン、折り紙鉄砲)。また、運動場の遊び道具や教具をもっと工夫することで、児童の体力向上が図れると思う。	握力や柔軟性は、家庭ががんばりカードや強化期間の取り組みにより向上した。しかし、投げる力を向上させていく取り組みが行えなかったため、教具や指導法を工夫していく必要がある。	
		ハンカチ・ティッシュ携帯、爪切りを習慣化する。	体	ハンカチ等携帯する児童、爪を切っている児童の割合(%) (月1回程度の点検)	75	75.5	86.0	114.6	A	2学期末の調査で、ハンカチは85.1%、ティッシュは80.5%、爪切りは92.3%で、平均値は86.0%であった。1学期末に比べ、すべての部分で数値は約10%向上した。	2	1	結果を保護者にも積極的に伝えていって、一体となった取り組みを行っていく必要がある。	4月当初に比べ、各学級での指導により数値の向上は見られたが、習慣化できているとは言えない。保護者の協力を得るとともに、指導の徹底を図っていく必要がある。
		「食」に対する意識を高める。	体	給食を残さず食べる児童の割合(%)	80	86.5	87.0	108.8	A	「嫌いなものでも残さず食べる」と答えた児童の割合は87.0%で、わずかであるが増加した。しかし、「家でも食べる」と答えた児童の割合は70.9%で、約6%減少した。	3	1	朝食アンケートの結果から見ても、給食の重要性が感じられる。家庭団楽の日の実施等、保護者への啓発活動を積極的に行っていくといい。食べることは、単に健康づくりの面だけでなく、体力・運動能力の向上、学習意欲の向上等とも深く関わっている。	4月当初の調査に比べ、給食においては上昇が見られたが、家庭においては減少が表れた。今後も児童に対する食育の指導を継続しながら、児童及び保護者の意識の向上を図っていく必要がある。
特信類ある学校	挨拶のできる子を育てます。 大田小学校の伝統をさらに高めます。 法規法令の遵守・開かれた学校にします。	顔を見て、はっきり相手に伝わるようにあいさつをする。	生活	レベル3以上のあいさつのできる児童の割合(自分の方から、大きな声であいさつする)	80	86.7	92.2	115.2	A	レベル3のあいさつ(自分の方から大きな声であいさつする。)ができていると答えた児童の割合は92.2%であった。(12月生活ふりかえりアンケートによる)	3	1	よく挨拶をしている。引き続き取り組みを進めていってほしい。評価指標については子どもの自己評価だけでなく、教師同士の評価など多面的に実態を捉えられるようにしていくとよい。	児童会での呼びかけや、学級での取り組みが定着し実りつつある。学校外でのあいさつや、本校への訪問者に対するあいさつなどもよびかけていきたい。
		そうじを時間いっぱいだまって行う。	生活	肯定的評価の児童の割合(%) (自己評価)	80	86.3	85.2	106.5	A	時間いっぱいだまって掃除ができたと答えた児童は85.2%であった。(12月生活ふりかえりアンケートによる)	3	1	高学年が、低学年に掃除を教える姿は見ていてもほほえましい。伝統の一つとして黙って掃除をするという習慣は継続していってほしい。	教師の日々の呼びかけや、高学年による低学年へのお手伝い掃除の活動により、だまって掃除ができるようになってきた。しかし、まだ私語が聞こえる場面もあるので引き続き指導が必要。
		情報を積極的に発信し、開かれた学校づくりを推進する。	教務	月1回以上更新し月300回以上のアクセス数	100	80.0	100	100	A	9月以降は月に2回以上更新し、アクセス数も300以上となった。	3	1	更新回数が増し、アクセス数もそれともなって増えている。今後も継続してほしい。	今後もこまめに更新をしたり、参観日や学校便り等でホームページのPRを行ったりして、アクセス数を増やす。
		適正な加配等の活用と教育課程管理を行う。	教務	計画通りに実施(形態・時数・研修内容等)	100	63.6	81.8	81.8	B	2学期末の段階で、授業時数などの学年も予定時数をクリアすることができた。指導方法改善はまだ予定時数に達していないが、大きな不足はない。	3	1	3学期末には、時数・学習内容ともに確実に履行してほしい。	学習内容についても毎学期チェックを行い、新学習指導要領本格実施に向けて備えをしている。指導指導方法工夫改善は、1月中に予定時数に達するように計画を見直して授業を行っている。

【自己評価 評価】
A:100 (目標達成) B:80 (ほぼ達成) < 100
C: 60 (もう少し) < 80 D:(できていない) < 60